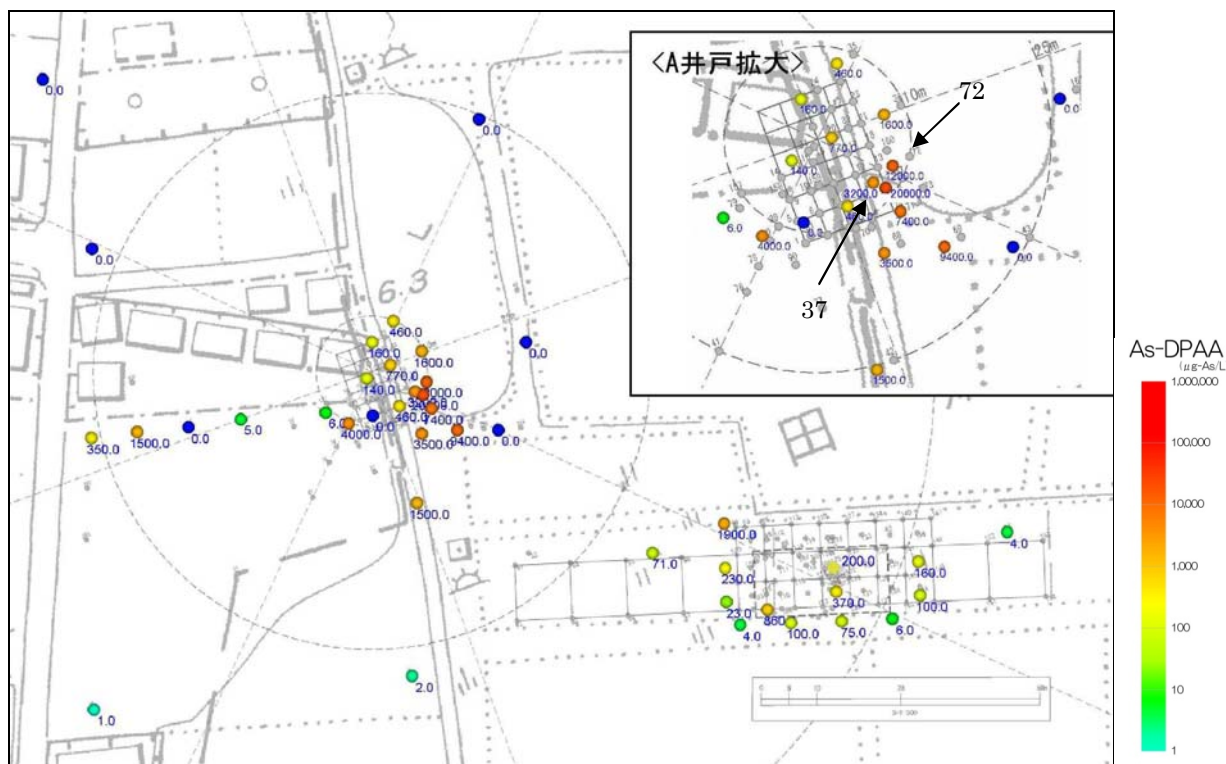
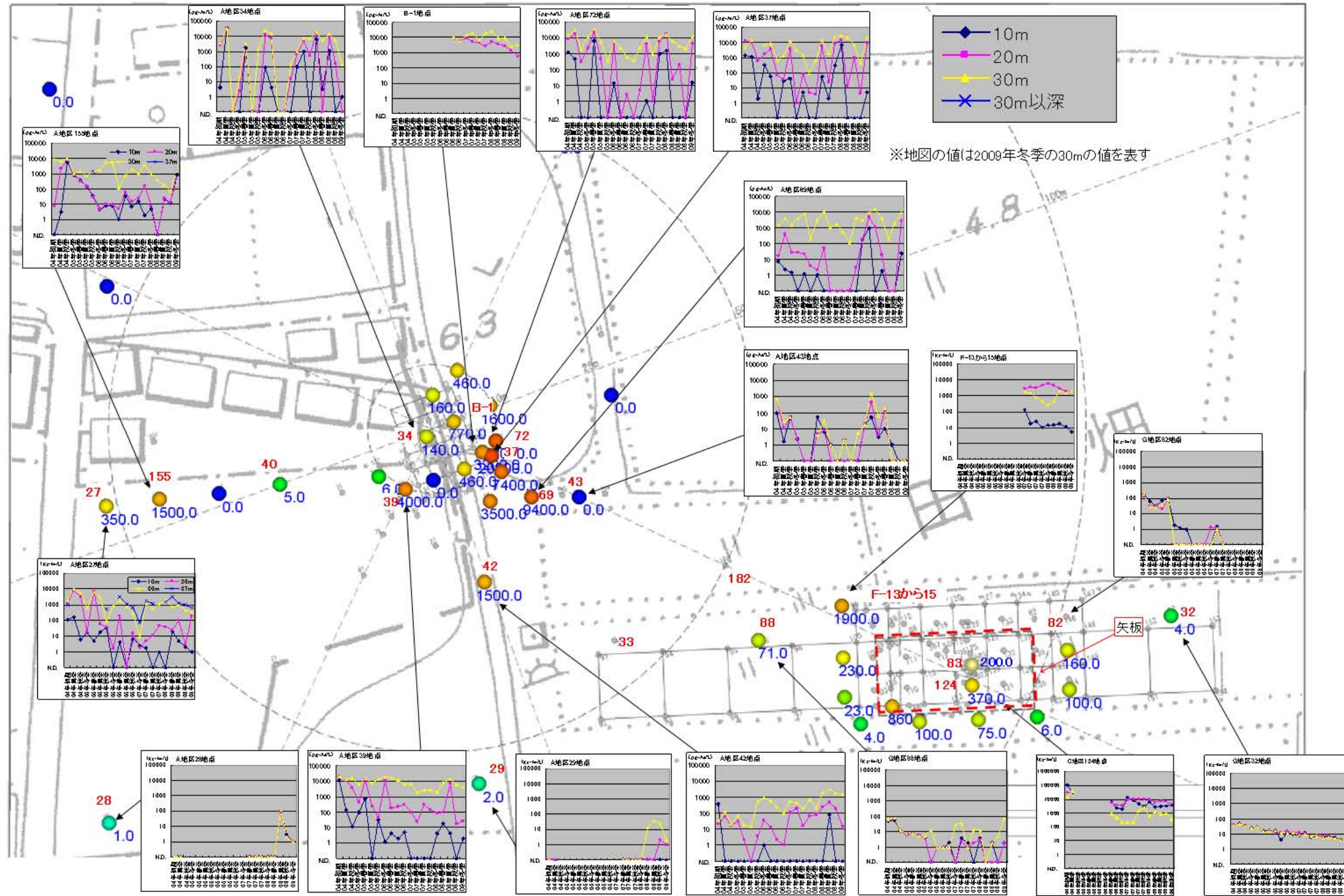


A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図 (GL - 2.0 m)



A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図 (GL - 3.0 m)

DPA A濃度変化 A井戸周辺 単位: $\mu\text{g-As/L}$



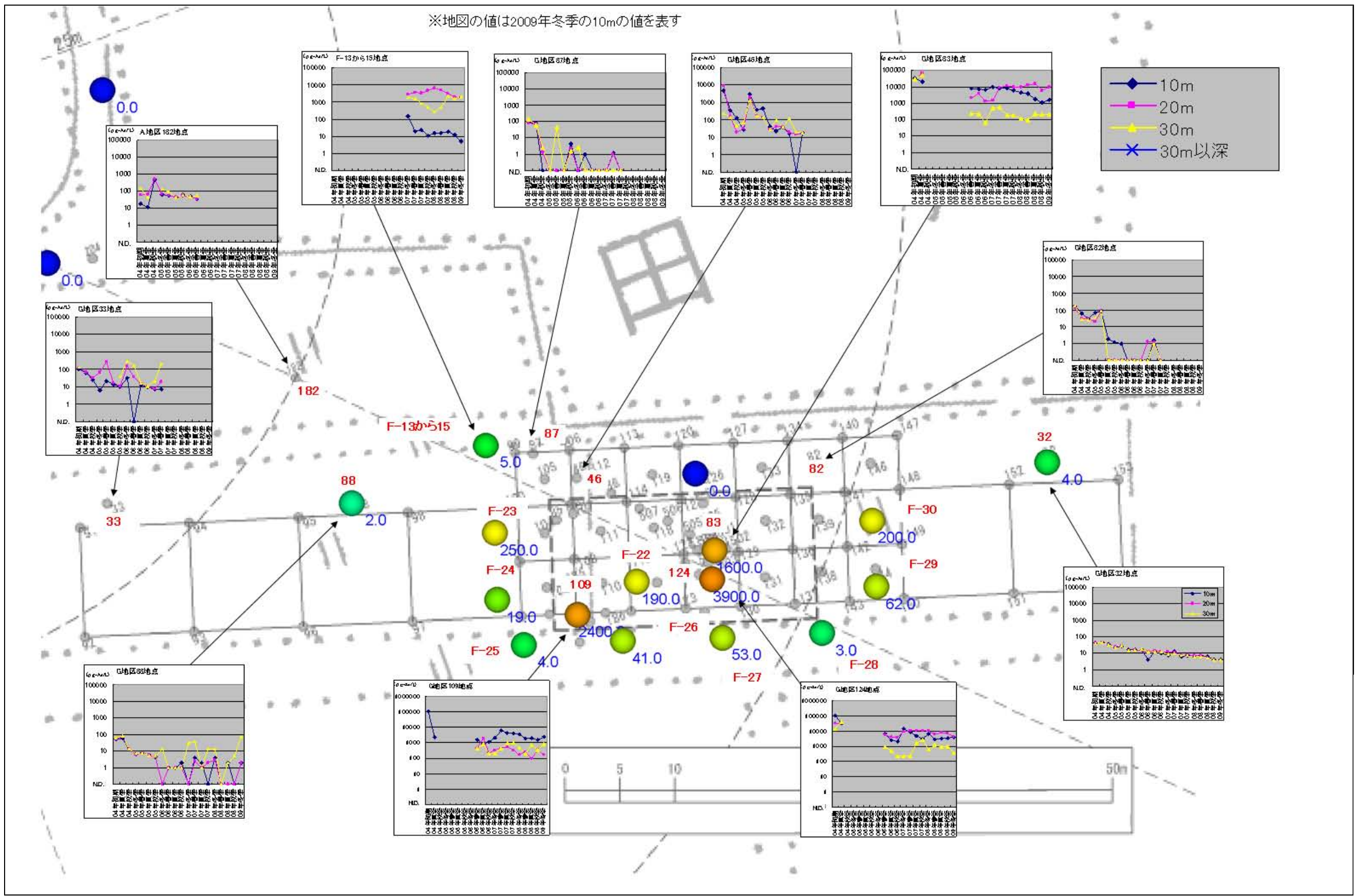
A井戸周辺地下水DPA A濃度変化図

②掘削調査地点付近

掘削調査地点内では、深度 30m よりも、深度 10m の濃度が高い傾向は変わらないが、掘削地点内中央付近にある当初 No83 地点（現 F-11）の深度 20m では 10.0mg-As/L（前回 6.1mg-As/L）となり、高濃度で推移している。深度 10m の濃度は、3 地点ともに濃度上昇が確認されたが、大きな上昇ではない。深度 30m における最大濃度は、当初 109 地点（現 F-9）で、0.86mg-As/L である。

掘削調査地点北側の F-13～F-15 では、これまで深度 20m の濃度が最も高い傾向にあったが、今回深度 20m で 1.8mg-As/L、深度 30m で 1.9mg-As/L とほぼ同等の濃度となった。

さらに、掘削調査地点の外周に新たに設置した F-23～F-30 では、掘削調査地点の東側（地下水流れの上流）に位置する F-29、F-30 で 0.062～0.20mg-As/L とやや濃度が高く、深度方向でも濃度に差異は少ない。掘削調査地点の南側においては、F-26 の深度 30m の 0.1mg-As/L が最大で、それ以外 0.1mg-As/L 未満となっている。掘削調査地点の西側（地下水流れの下流）の F-23 では、0.23～0.25mg-As/L と、前回 0.03～0.045mg-As/L と比較してやや濃度が上昇した。



掘削調査地点周辺地下水DPAA濃度変化図(G L - 1 0 m)